

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和5年2月22日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
2月23日(木・祝) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「子ども政策の総合化を考えるⅡ 乳幼児の 学びの保障: 幼児教育と小学校教育の接続の観 点から」
2月24日(金) 13:30~16:40	日本学術会議 講堂(ハイブリ ッド開催)	公開シンポジウム 「子育て支援の継続性を高めるために一新た な視点の提案ー」
3月4日(土) 14:00~17:00	オンライン開 催	公開シンポジウム 「地方におけるデジタル・ガバナンスー政治・ 行政・民主主義のアップデートに向けて」
3月7日(火) 10:00~16:15	日本学術会議 講堂(ハイブリ ッド開催)	公開シンポジウム 「Gサイエンス学術会議 2023」
3月8日(水) 13:00~17:00	オンライン開 催	公開シンポジウム 「水害対策と建築分野の取組み」
3月10日(金) 13:00~17:00	日本学術会議 講堂(ハイブリ ッド開催)	公開シンポジウム 「第8回理論応用力学シンポジウムー力学の 深化に向けてー」
3月11日(土) 13:00~17:30	日本学術会議 講堂(ハイブリ ッド開催)	学術フォーラム 「食料システムから地球温暖化の抑制を考え る」
3月11日(土) 13:30~16:00	京都大学 時計 台記念館 百周 年記念ホール (ハイブリッ ド開催)	市民公開講座 「100年後の人類は？」
3月11日(土) 14:30~17:00	オンライン開 催	公開シンポジウム 「これからの教育政策のゆくえーCSTI 教育・ 人材育成ワーキンググループ「政策パッケー ジ」をめぐってー」
3月14日(火) 11:00~17:00	日本学術会議 講堂	公開シンポジウム 「数理科学の展望 国際的展開と諸科学・産業 との連携拡大を探る」

3月14日（火） 14：00～16：15	佐賀大学理工 学部6号館1 階講義室（ハイ ブリッド開催）	九州・沖縄地区会議学術講演会 「潜在的なエネルギー・資源（Future Resource）に着目した学術研究」
3月15日（水） 13：30～17：50	上智大学四谷 キャンパス（ハ イブリッド開 催）	公開シンポジウム 「グリーントランスフォーメーションに挑む 応用物理：持続可能な未来社会に向けて」
3月17日（金） 13：45～18：30	上智大学 四谷 キャンパス A402 6号館（ハ イブリッド開 催）	公開シンポジウム 「これからの半導体産業を牽引する人材育成 と産学連携」
3月18日（土） 13：00～16：00	オンライン開 催	公開シンポジウム 第3回「With/After コロナ時代におけるケア の課題と新たな取り組み～医療・ケア、倫理、 政策の捉え直しと提案～」
3月22日（水） 13：30～17：00	日本学術会議 講堂（ハイブリ ッド開催）	学術フォーラム 「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティ の推進」
3月26日（日） 13：30～16：00	オンライン開 催	公開シンポジウム 「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保 障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援 への改革～」
3月27日（月） 11：00～17：20	日本学術会議 講堂（ハイブリ ッド開催）	公開シンポジウム 「計算音響学の目指すもの」

※新型コロナウイルス等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

子ども政策の総合化を考えるⅡ

乳幼児の学びの保障：幼児教育と小学校教育の接続の観点から

2023年2月23日（木・祝） 13：00 - 16：00（開場 12：30）

オンライン開催 参加費無料 事前申込制（先着1000名）

幼保小接続は、子ども政策の総合化の議論において、看過された課題でした。結果的には実現しませんでした。幼保の管轄は、義務教育とは切り離され、内閣府の外局であることも家庭庁に一元化することが目指されていました。しかし近年の、世界的な幼児教育改革の動向においては、乳幼児の学ぶ権利の保障という観点から、乳幼児期から一貫して教育系の省庁が管轄する制度が主流となっています。すなわち、日本の政策の議論において看過されているのは、乳幼児の学びの保障という観点だといえるでしょう。

本シンポジウムでは、海外の幼保小接続の動向を踏まえた上で、乳幼児の学びの保障というアイデアに基づいて幼保小接続のあり方について考えます。

プログラム

	司会	野澤 祥子	（日本学術会議連携会員、CEDEP准教授）
開会挨拶	13:00	遠藤 利彦	（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授、CEDEPセンター長）
趣旨説明	13:05	浅井 幸子	（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授、CEDEP副センター長）
講演 1	13:10	幼保一元化のグローバルな動向	
		門田 理世	（西南学院大学人間科学部教授）
講演 2	13:50	幼保小接続の現在：探究でつなぐ	
		秋田 喜代美	（日本学術会議特任連携会員、学習院大学文学部教授）
指定討論	14:30	大桃 敏行	（日本学術会議連携会員、学習院女子大学国際文化交流学部教授）
		中坪 史典	（日本学術会議連携会員、広島大学大学院人間社会科学研究科教授、広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設長）
		西岡 加名恵	（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授）
総合討論	15:00		
閉会挨拶	15:55	岡部 美香	（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学部教授）

申し込み方法

CEDEPのウェブサイトからお申し込みください。

<https://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20230223symposium/>



主催：日本学術会議心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会、心理学・教育学委員会排除・包摂分科会
共催：東京大学教育学研究科附属発達保育実践政策学センター、広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設、日本保育学会、日本教育学会、教育関連学会連絡協議会

日本学術会議 公開シンポジウム

【開催趣旨】これまで様々な子育て支援が行われているが、子どもを育てる親のストレスは軽減することなく、虐待や少子化等の問題は依然として深刻である。

支援の対象が要支援家庭に偏っていること、すべての家庭を対象に実施される乳児家庭全戸訪問は生後4か月までと期限が限られていること等にみられるように、日本のこれまでの子育て支援は子育て中のすべての家庭のウェルビーイングを視野に入れたものになっていない。また、多くの人にとって学校教育終了後に子育てに関する教育を受ける機会も限定的である。本シンポジウムでは、より良い子育て環境の実現のために、包摂的で継続性のある子育て支援という新しい視点の導入を、子育て支援、小児看護学、家庭科教育、児童学の専門家とともに議論する。

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会

後援：日本生命科学アカデミー

PROGRAM

- 司会 鈴木恵美子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）
- 13:30 開会挨拶
多屋淑子（日本学術会議連携会員、日本女子大学名誉教授）
- 13:40 開催趣旨説明
守随 香（日本学術会議連携会員、共立女子大学家政学部教授）
- 14:00 『子育て支援事業の最前線からみえるもの
ー繋がりとぬくもりの不足ー』
新澤拓治（社会福祉法人雲柱社 子育て支援コーディネーター）
- 14:25 『子育て期の家族のウェルビーイングー予防的子育て支援の重要性ー』
浅野みどり（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学系研究科
総合保健学専攻教授）
- 14:50 『すべての人が子育て力をもつためにー生涯教育からの提案ー』
工藤由貴子（日本学術会議連携会員、和洋女子大学総合研究機構
家庭科教育研究所特別研究員）
- 15:15 『子どもの育ちに還元される子育て支援』
田代和美（和洋女子大学人文学部教授）
- 15:40 休憩
- 15:50 全体討議
- 16:30 閉会挨拶
都築和代（日本学術会議連携会員、関西大学環境都市工学部教授）

子育て支援の継続性を高めるために
ー新たな視点の提案ー

2/24(金)2023年 13:30ー16:40

会場：日本学術会議 講堂(ハイブリッド開催)

東京都港区六本木7-22-34(千代田線・乃木坂駅下車)

または オンライン開催

参加申し込み：2月17日(金)までに、下記URL

もしくは右のQRコードからお申し込みください。

(申込後確認メールが届きます。)

<https://forms.gle/FBQVqBMJ7Dkf3uxN8>



問合わせ先：共立女子大学家政学部 守随 香
kshuzui@kyoritsu-wu.ac.jp

日本学術会議政治学委員会
政治過程分科会 公開シンポジウム

地方におけるデジタル・ガバナンス —政治・行政・民主主義の アップデートに向けて



政治・行政のデジタル化は国だけでなく、少子高齢化や人口偏在といった課題を抱える地方においても重要な方策となっている。デジタルを通じた政策立案過程の高度化や市民参加の活性化を目指す上で、国内外の動向を確認し、活動の実態や課題、今後の方向性について、多様な立場で情報共有を行う。

主催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会

科学研究費補助金基盤研究(A)「JESⅦ調査実施による選挙研究から代議制民主主義研究への展開とデータ公開」(代表 小林良彰)

共催：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所 パブリックシステム・ラボ

日時：令和5年(2023年)3月4日(土)14:00～17:00 オンライン(Zoom Webinar)

次第(敬称略)：

開会 西川伸一(日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授)

第一部 政治・行政のデジタル化の動向

講演 穴戸常寿(日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

「日本の政治・行政のデジタル化の課題と展望」

庄司昌彦(武蔵大学社会学部教授)

「地方自治体における行政デジタル化とデジタル・ガバナンスの展望」

岩崎尚子(早稲田大学電子政府・自治体研究所教授)

「行政DXの課題と展望－地方自治体のDXのあり方」

質問 石上泰州(日本学術会議連携会員、平成国際大学法学部教授)

第二部 地方におけるデジタル・ガバナンスの取り組み

講演 金澤克仁(茨城県取手市議会議員)

「取手市議会におけるICTを活用した議会改革(デモテック)」

関 治之(Code for Japan代表)

「日本のデジタル・ガバナンスとシビックテックの未来」

多田 功(加古川市企画部政策企画課長)

「加古川市における住民参加の取り組み」

質問 中谷美穂(日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部教授)

閉会 谷口尚子(日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

参加：参加費無料。以下のURLまたは右のQRコードから、3月2日(木)までにお申し込み下さい。
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2023/02/14-162500.html>



水害対策と建築分野の取組み

日時：令和5年3月8日（水）13時～17時
場所：オンライン開催
(Zoom+YouTubeによる配信を予定)

主催：日本学術会議 気候変動と国土分科会
共催：一般社団法人 日本建築学会
公益社団法人 土木学会
後援：一般社団法人 防災学術連携体

■開催趣旨

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
気候変動と国土分科会では、気候変動の影響を受けて激甚化する水災害に対応した新たな「流域治水」による防災・減災対策（適応策）のために不可欠となる知見や科学・技術について審議している。

流域治水を効果的に進めるためには、地形特性による影響や気候変動によって年々変化していく豪雨発生状況を踏まえて浸水リスクの態様を把握し、土地利用の規制・誘導等も視野に入れつつ、建築物等における水害対策と、治水インフラ整備との調和・連携を図っていくことが重要である。即ち建築物の立地環境に応じた対策の整備を、治水インフラと建築物側とで連携して進めていく必要がある。

気候変動と国土分科会では、「流域治水に資する建築物の耐水設計検討小委員会」を設置し、建築物に関する過去の水害や対策事例、活用可能な洪水情報を整理した上で、建築物の水害対策の考え方を検討してきた。建築物や地域の水害対策に適用可能な、河川氾濫等による浸水等のハザード情報のあり方とその活用、および必要な活動などの具体的な内容についても、建築（・地域計画）分野と土木分野の技術者が共同で検討することとしている。

本シンポジウムでは、本小委員会にて検討されてきた内容のうち、建築物の水害対策に焦点を当て、今後の具体的な防災・減災につながる活動に向けて、内容を深めるための議論を行う。なお、本シンポジウムは、関連する建築・土木・都市計画分野などの専門家に広く参加を呼びかけ、開催する。

■プログラム

司会 持田 灯（気候変動と国土分科会幹事、東北大学教授）

13:00 挨拶 米田雅子（日本学術会議第三部副部長、東京工業大学特任教授）

13:05 趣旨説明 池田駿介（気候変動と国土分科会 委員長、建設技術研究所研究顧問）

13:10 流域治水と建築物の耐水対策への期待
望月常好（気候変動と国土分科会 副委員長、日本河川協会監事）

13:20 河川氾濫と建築物の被害
二瓶泰雄（東京理科大学教授）

13:40 建築物の水害対策の課題
木内 望（建築研究所研究専門役）

14:00 建築環境面から見た建築物の水害対策
長谷川兼一（秋田県立大学教授）

14:20 建築物の耐水設計に対する取組み（提案）
田村和夫（神奈川大学客員教授）

14:40 土木学会・日本建築学会TFチームにおける取組み
立川康人（京都大学教授）

15:00 休憩（10分間）

15:10 各分野からの意見

建築構造分野の視点から 楠 浩一（東京大学教授）

建築環境分野の視点から 秋元孝之（芝浦工業大学教授）

建築計画分野の視点から 清家 剛（東京大学教授）

都市計画分野の視点から 野澤千絵（明治大学教授）

水害リスクマネジメントの視点から

大原美保（土木研究所主任研究員）

復旧・復興の視点から 荒川尚美（日経アーキテクチャ記者）

16:10 総合討論

司会：久田嘉章（工学院大学教授）

16:55 まとめ・閉会

田辺新一（日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授）

■参加申込み

参加ご希望の方は以下のURLからお申し込み下さい。（右のQRコードからも入れます。）

<https://forms.office.com/r/LB20wTdxv0>

■問合せ先

田村和夫 tamkaz.kento@ninus.ocn.ne.jp



Gサイエンス 学術会議2023 一般公開 国際シンポジウム



開催概要

- ◆ 会期: **2023年3月7日(火)**
- ◆ 開催形式: **日本学術会議講堂**及び**YouTube**のハイブリット形式
- ◆ 言語: 日本語・英語(同時通訳) ◆ 定員: 50名(現地) ◆ 参加費: 無

プログラム

時間	内容	登壇者
10:00-10:30	開会挨拶	● 梶田 隆章(日本学術会議会長) ● 高村 ゆかり(日本学術会議副会長)
10:30-11:30	基調講演・ディスカッション Session 1: 気候変動	● Gサイエンス学術会議2023「気候変動」執筆対応小分科会 ● ミシェル・トランブレ(カナダ王立協会科学アカデミー会長) ● ロビン・グライムス(英国王立協会外務担当副会長)
12:30-13:30	基調講演・ディスカッション Session 2: ヘルス	● Gサイエンス学術会議2023「ヘルス」執筆対応小分科会 ● アラン・フィッシャー(フランス科学アカデミー会長) ● マリア・クリスティーナ・マルクツォ(イタリア・リンツェイ科学アカデミー国際担当役員)
13:30-14:30	基調講演・ディスカッション Session 3: 海洋	● Gサイエンス学術会議2023「海洋」執筆対応小分科会 ● ジェラルド・ハウグ(ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ会長) ● マルシア・マクナット(全米科学アカデミー会長)
15:00-16:00	ディスカッション Session 4: 社会と科学	● 梶田 隆章 ● ナリンダー・クマール・メヘラ(インド科学アカデミー副会長) ● ピーター・グルックマン(国際科学会議・会長) ● フィリッポ・ロッシ(グローバルヤングアカデミー理事) ● マリア・クリスティーナ・マルクツォ
16:00-16:15	閉会挨拶	● 梶田 隆章

申込方法

- ◆ 日本学術会議講堂での傍聴をご希望の場合※定員: 50名(現地)
https://form.cao.go.jp/scj/en_opinion-0011.html



- ◆ YouTubeでの傍聴をご希望の場合
https://form.cao.go.jp/scj/en_opinion-0012.html



受付期間: 2023年2月10日(金)～3月1日(水) 正午

お問い合わせ

日本学術会議事務局
TEL: 03-3403-1949

参事官(国際業務担当) 付 長谷川・幡手
住所: 東京都港区六本木7-22-34

主催 日本学術会議

第8回 理論応用力学シンポジウム

— 力学の深化に向けて —

主 催

日本学術会議 機械工学委員会合・総合工学委員会・土木工学・
建築学委員会合同 理論応用力学分科会

共 催

公益社団法人日本工学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、日本計算数理工学会、日本混相流学会

協 賛

公益社団法人自動車技術会、公益社団法人応用物理学会

日 時

令和5年（2023年）3月10日（金）13:00 - 17:00

場 所

日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）ハイブリッド開催

参加料
無料

古典力学は、機械工学におけるいわゆる4力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化にともない、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これら諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとられない広範囲な学問分野との融合が必要である。本シンポジウムは今回が8回目となるが、上記を背景に、古典力学研究の裾野を広げる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論を重ねてきた。今回は、講演会の前半は、カーボンニュートラルをキーワードに、この分野で活躍している研究者の方々にご講演を頂く。後半は、IUTAM・国際連携小委員会のメンバーで、日本で活躍する外国人研究者による講演を予定している。

司会：山西 陽子（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院・教授）

13：00 開会の挨拶 前川 宏一（日本学術会議第三部会員、横浜国立大学大学院工学研究院・教授）

13：10 招待講演（1）「固体高分子形燃料電池内のマルチスケール水・酸素輸送現象解析－熱力学からはじまる持続可能なエネルギーシステムへの道筋－」
田部 豊（北海道大学大学院工学研究院・教授）13：40 招待講演（2）「カーボンニュートラルに向けたアンモニア発電技術開発の現況」
藤森 俊郎（株式会社IHI技監）14：10 招待講演（3）「分子シミュレーションを活用した環境負荷の小さい冷媒開発」
近藤 智恵子（日本学術会議連携会員、長崎大学工学研究科・教授）

14：40 （休憩）

15：00 IUTAM・国際連携小委員会企画
挨拶 堀 宗朗（日本学術会議連携会員、JAMSTEC）
講演

- ・ Prof. M. Matsubara, (Shinshu Univ.) "Series of IUTAM symposia on laminar-turbulent transition: the 40+ year struggle to understand origins of turbulence"
 - ・ Prof. P. Cesana, (Kyushu Univ.) "Fully automatized optimization of ring-opening reactions in lactones via 2-step machine learning"
 - ・ Prof. A. Chabchoub (Kyoto Univ.) "How ocean freak waves are generated in the lab"
 - ・ Prof. T. Sano (Keio Univ.) "Mechanics of flexible materials; from foods and toys to soft-robotics"
- パネルディスカッション

16：50 閉会の挨拶 高田 保之（日本学術会議第三部会員、
九州大学カーボンニュートラルエネルギー国際研究所・特任教授）

17：00 閉会

参加申込み方法

参加を希望される方は、**3/7(火)12:00**までに下記URLまたは右のコードより
事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。

<https://forms.gle/Pxmr1dXbovWZFHKQ8>

連絡先：高木周（東京大学・教授） e-mail：takagi*mech.t.u-tokyo.ac.jp（送信の際には*を@に変えてください）



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

カーボンニュートラルへの取り組み

Symposium on Theoretical and Applied Mechanics

– Toward a Deeper Understanding of Mechanics –

Organizing

Committee on Mechanical Engineering, Committee on General Engineering, Committee on Civil Engineering and Architecture, Science Council of Japan Joint Subcommittee on Theoretical and Applied Mechanics

Co-sponsorship

The Japan Federation of Engineering Societies (JFES), The Society of Chemical Engineers, Japan (SCEJ), The Japanese Geotechnical Society (JGS), Japan Society of Civil Engineers (JSCE), The Japan Society of Mechanical Engineers (JSME), The Meteorological Society of Japan (MSJ), The Japan Society for Computational Engineering and Science (JSCES), The Architectural Institute of Japan (AIJ), The Atomic Energy Society of Japan (AESJ), The Japan Society for Aeronautical and Space Sciences (JSASS), The Society of Materials Science, Japan (JSMS), The Japan Association for Earthquake Engineering (JAE), The Mathematical Society of Japan (MSJ), The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE), The Physical Society of Japan (JPS), The Japan Society of Fluid Mechanics (JSFM), The Society of Rheology, Japan (SRJ), Japan Society for Computational Methods in Engineering (JASCOME), The Japanese Society for Multiphase Flow (JSMP)

Support

The Society of Automotive Engineers of Japan (JSAE), The Japan Society of Applied Physics (JSAP)

Date

13:00 - 17:00, 10th of March (Fri), 2023

Venue

Auditorium, Science Council of Japan and OnlineFree
of
charge

Classical mechanics is often regarded as a fundamental discipline established in each field of study, like the so-called four dynamics in mechanical engineering (mechanics, mechanics of materials, fluid mechanics, and thermodynamics). However, with the diversification of problems covered by mechanics, unsolved problems in mechanics across various disciplines have emerged. In order to tackle these problems, it is necessary to integrate a wide range of disciplines beyond the framework of existing fundamental disciplines. This symposium, the eighth in the series, has been held to review the latest trends in advanced research that can broaden the scope of classical mechanics research, and at the same time, to discuss the prospects for next-generation mechanics research that should be newly developed by researchers based on classical mechanics in collaboration with different fields. In the first half of this year's lecture, we will have lectures by researchers active in this field, with carbon neutrality as the keyword. The second half of the lecture will be given by a foreign researcher who is a member of the IUTAM/International Collaboration Subcommittee and active in Japan.

Chair : Yoko Yamanishi (Associate Member, Science Council of Japan; Professor, Kyushu University)

- 13 : 00** **Opening Remarks** Koichi Maekawa (Member of the Third Section of the Science Council of Japan, Professor, Graduate School of Engineering, Yokohama National University)
- 13 : 10** **Invited Lecture (1)** "Analysis of Multiscale Water and Oxygen Transport Phenomena in Polymer Electrolyte Fuel Cells - A Pathway to Sustainable Energy Systems Starting from Thermodynamics -"
Yutaka Tabe (Professor, Hokkaido University)
- 13 : 40** **Invited Lecture (2)** "Current Status of Ammonia Power Generation Technology Development Toward Carbon Neutrality"
Toshirou Fujimori (Chief Engineer, IHI Corporation)
- 14 : 10** **Invited Lecture (3)** "Development of Refrigerants with Low Environmental Impact Using Molecular Simulation"
Chieko Kondou (Associate Member, Science Council of Japan, Professor, Nagasaki University)
- 14 : 40** (Break)
- 15 : 00** **IUTAM • Lectures planned by the International Cooperation Subcommittee**
Address Muneo Hori (Director-General, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC))
Lectures
- Prof. M. Matsubara, (Shinshu Univ.) "Series of IUTAM symposia on laminar-turbulent transition: the 40+ year struggle to understand origins of turbulence"
 - Prof. P. Cesana, (Kyushu Univ.) "Fully automatized optimization of ring-opening reactions in lactones via 2-step machine learning"
 - Prof. A. Chabchoub (Kyoto Univ.) "How ocean freak waves are generated in the lab"
 - Prof. T. Sano (Keio Univ.) "Mechanics of flexible materials; from foods and toys to soft-robotics"
- Panel Discussion**
- 16 : 50** **Closing Remarks** Yasuyuki Takata (Member of the Third Section of the Science Council of Japan, Research Professor, International Institute for Carbon-Neutral Energy Research (WPI-I2CNER), Kyushu University)
- 17 : 00** **Closing**

Registration


日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

カーボンニュートラルへの取組み

If you wish to participate, please register in advance by **12:00 on March 7th (Tue)** at the URL below or by using the code on the right. Pre-registration will be closed as soon as capacity is reached. <https://forms.gle/Pxmr1dXbovWZFHQ8>
Contact : Shu Takagi (Professor, The Univ. Tokyo)
e-mail : takagi * mech.t.u-tokyo.ac.jp (Please change * to @ when you send it.)



日本生理学会 第100回記念大会
市民公開講座

100年後の人類は？

これまでの100年間、科学技術や医療の進歩により人類は寿命を延ばし、
身体機能を向上させてきました。

この公開講座では100年後の人類の未来に想いを馳せながら、

「老化のしくみ」を研究する三浦恭子先生(熊本大)、

「人工冬眠」を目指す砂川玄志郎先生(理研)、

「脳と機械をつなぐ」ことに挑戦している牛場潤一先生(慶應大)の

3名の気鋭の研究者にご講演いただきます。

特に、これからの社会を担って行く高校生らに多く参加して頂き、

講演者を含めて参加者で広く議論して未来を考えることができればと思います。

プログラムや演者の講演内容は背面をご覧ください。



会期

2023年3月11日(土)

午後1時30分～4時(12時30分開場)

会場

京都大学 時計台記念館 百周年記念ホール

京都府京都市左京区吉田本町

日本生理学会

100
since 1922 th



三浦 恭子
熊本大学



砂川 玄志郎
理化学研究所



牛場 潤一
慶應義塾大学



現地参加を希望の方

参加費：無料

現地参加を希望の方のみ事前登録が必要です。大会ホームページ
または右記QRコードより参加登録をお願いします。

締切 2023年2月28日(火) ※定員になり次第締め切ります。

定員 250名(先着順)



オンライン参加を希望の方

Zoom配信

オンライン視聴は登録不要です。
大会ホームページより視聴ページにアクセスしてください。
配信はZoomを利用します。

https://www2.aeplan.co.jp/psj2023/open_lecture/

主催 日本生理学会、日本学術会議 基礎医学委員会 機能医科学分科会、同IUPS分科会 後援 日本生命科学アカデミー



IYBSSD2022

日本生理学会第100回記念大会事務局

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原2-14-14 新大阪グランドビル6F 株式会社エー・イー企画内

TEL:06-6350-7163 E-mail:psj2023@aeplan.co.jp

日本生理学会
第100回
記念大会

市民公開講座 100年後の人類は？

日本生理学会
100
since
1922
th

プログラム概要

開会挨拶

伊佐 正 (京都大学・日本学会会議員)

第一部 講演

13:40～14:40

司会
久保 義弘 (生理学研究所・日本学会会議連携会員)

三浦 恭子 (熊本大学)
砂川 玄志郎 (理化学研究所)
牛場 潤一 (慶應義塾大学)

第二部 総合討論

14:55～15:55

ファシリテーター
丸山 めぐみ (生理学研究所)

瀬川 茂子 (朝日新聞社 科学部)
樽野 陽幸 (京都府立医科大学・日本学会会議特任連携会員)
川口 真也 (京都大学)
第一部の講演者3氏、高校生数名

閉会挨拶

鍋倉 淳一 (生理学研究所・日本学会会議連携会員)



三浦 恭子

熊本大学

PROFILE

「最長寿・老化耐性・がん耐性齧歯類ハダカデバネズミの不思議」

専門は長寿動物医学。京都大学大学院医学研究科で博士号(医学)を取得(山中伸弥・岡野栄之両教授に師事)。2017年より熊本大学准教授。老化やがんの革新的な予防戦略の開発を目指し、長寿哺乳類における老化耐性・がん耐性の分子機構の研究に取り組んでいる。最長寿げっ歯類ハダカデバネズミは、マウスと同等の大きさながら30年以上の長寿命であり、強い老化耐性・がん耐性の特徴をもつことから、近年大きな注目を集めている。本講演では、これまでの研究で明らかになってきた、ハダカデバネズミがもつ抗老化・発がん抑制のメカニズム、また長寿哺乳類研究がもつ未来の可能性についてお話ししたい。



砂川 玄志郎

理化学研究所
生命機能科学研究センター

PROFILE

「人工冬眠は人類に何をもたらすのか」

小児科医・冬眠研究者。医者時代に霊長類が冬眠することを知り、人間も冬眠できると確信し、2006年から研究の世界へ。人工冬眠を実現できれば今は助からない症例を減らすことができると信じており、研究開発に勤しんでいる。2020年から理化学研究所で冬眠生物学研究チームを主宰。冬眠中の哺乳類は触れるとあまりの冷たさに死んでいるようにしか感じないが、実際は死んでない。この生とも死とも言えない奇妙な状態がどうやって維持されているか明らかにしたい。本講演では、最新の冬眠研究の紹介をした上で人工冬眠の実現可能性について解説する。また、人工冬眠が実現することで私たちの社会がどのように変わるのかお話ししたい。



牛場 潤一

慶應義塾大学

PROFILE

「脳のしなやかさを科学する」

専門はヒト神経科学。慶應義塾大学大学院理工学研究科で博士号(工学)を取得。2022年より同大学教授。脳卒中によって機能不全になった脳の神経回路を、脳波反応にตอบสนองして動作するロボットを使ってトレーニングし、機能回復に導く「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)」を開発。医療機器として社会実装するために、研究成果活用企業(株)LIFESCAPESを創業、代表取締役を兼務しながら事業化を進めている。この講演では、脳が機能を組み替える「可塑性(かそせい)」というユニークな性質について紹介し、これまでの100年間に先人たちが取り組んできた研究の歴史を振り返る。また、現代になってAIやロボットが大きく発展し、脳と融合したBMIという技術ができていまい、これからの私たちの社会はどのように変わっていくのか、その展望を皆さんと共に考える。



オンライン開催・無料
(Zoomウェビナー)

【公開シンポジウム】

これからの教育政策のゆくえ

—CSTI 教育・人材育成ワーキンググループ「政策パッケージ」をめぐる—

2023年3月11日(土) 14:30-17:00

内閣府総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)に設置された教育・人材育成ワーキンググループにおいて、2022年6月に「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」が取りまとめられました。

「パッケージ」という言葉の示す通り、大きな3本の政策のもと、46の施策と多岐にわたる内容を含んでいます。その後、この方針は文部科学省の審議会において、具体化されつつあります。

この政策パッケージはどのようにして策定されていったのか、教育研究・教育実践に関わる者としてこれをどのように評価するか、議論を深めたいと思います。



プログラム

- 14:30 開会挨拶・趣旨説明：浜田博文（筑波大学教授、日本学術会議連携会員）
- 14:35 報告1「CSTI政策パッケージを越えて：教育政策のこれからを考える」
秋田喜代美（学習院大学教授、日本学術会議特任連携会員）
- 14:55 報告2「CSTI政策パッケージを考える」
中嶋哲彦（愛知工業大学教授）
- 15:15 報告3「子供たちの才能を学校と社会が認めて育む」
隅田 学（愛媛大学教授）
- 15:35 報告4「文理のジェンダーギャップを問い直す」
濱中淳子（早稲田大学教授）
- 休憩（10分）
- 16:05 指定討論：篠原弘道（NTT相談役、CSTI有識者議員）
- 16:20 質疑応答
- 16:55 総括・閉会挨拶：吉田 文（早稲田大学教授、日本学術会議会員）
岡部美香（大阪大学教授、日本学術会議会員）
- 司会：松下佳代（京都大学教授、日本学術会議会員）



主 催

日本学術会議 心理学・教育学委員会 高大接続を考える分科会
教育関連学会連絡協議会（関連協）



お申込み

<https://forms.gle/AyWYtS5zUgLfyi1j9>
(申込み締切：2023年3月9日)



令和 5 年

3月14日

🕒 11:00 ~ 17:00

数理科学の展望

国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る

【会場】日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

国際数学連合 (International Mathematical Union, IMU) の加盟団体である日本学術会議が、その数学委員会 (Committee for Mathematics) として数理科学委員会 IMU 分科会を設置し、その活動を開始したのは 2012 年 1 月である。それ以来 IMU 分科会は積極的に IMU に於ける我が国の存在感の向上に努め、具体的な成果を挙げてきた。一方、国内の学術の展望を示した提言『学術の展望—学術からの提言 2010』の一部を成す報告『数理科学分野の展望』を数理科学委員会が発出したのは 2010 年 4 月である。以来、数理科学委員会は一貫して数学・数理科学の重要性を強調するとともに、諸科学・産業との連携研究の推進の在り方を審議し、2017 年 9 月には『数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言』を発出した。産業界での数学の需要も高まり、数理科学人材育成も重要課題である。

本シンポジウムでは、第一部では我が国の数理科学研究の成果を報告し、非専門家を対象とした数理科学の研究について触れていただき、第二部では数理科学の可能性と諸科学・産業との連携研究推進について、各界からの要請や期待を伺い、共に話し合うことを目的とする。なお、本シンポジウムの開催予定日である 3 月 14 日は、円周率にちなみ、国際数学デー (International Mathematical Day) と呼ばれ、IMU の下、世界中で一般向けの数学イベントも開催されている。今回のシンポジウムはその趣旨に沿ったイベントではないが、数理科学の研究者のみならず、より一般の方にも我が国の数理科学研究の現状と将来性について知っていただく機会としたい。

第一部 我が国の数理科学の国際的展開

第一部総司会

清水 扇丈（日本学術会議連携会員、京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

第一部開会の挨拶・趣旨

11:00 - 11:05

小園 英雄

（日本学術会議連携会員、早稲田大学 基幹理工学部 教授、東北大学数理科学連携研究センター教授）

国際数学連合 (IMU) と国際数学者会議 (ICM)

11:05 - 11:20

「国際数学連合の概要について」

森 重文（京都大学国際高等研究長、IMU 元総裁）

「国際数学者会議の今後について」（ビデオ講演）

中島 啓（日本学術会議特任連携会員、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構教授、IMU 総裁）

持続可能な発展のための国際基礎科学年と数理科学への期待

11:20 - 11:30

「基礎科学をみんなのものに

～持続可能な発展のための国際基礎科学年の目指すもの～」

野尻 美保子（日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構教授）

先端数学への誘い（ICM 招待講演者による講演）

11:30 - 12:30

【講演 1】「量子統計力学への誘い」（ビデオ講演）

緒方 芳子（東京大学大学院数理科学研究科教授）

2017 年より現職。専門は数理論理学、特に「量子系における統計力学」。2021 年 8 月国際数理論理学会議 (ICMP) において、Henri Poincaré Prize 受賞および全体講演を行う。2022 年 ICM 招待講演者、2022 年日本数学会秋季賞受賞。

【講演 2】「微分幾何学と代数幾何学の交流」

望月 拓郎（京都大学数理解析研究所教授）

2012 年より現職。専門は微分幾何学・代数幾何学、特にワイルド調和束や純ツイスター D 加群の理論を展開。2006 年日本数学会春季賞受賞。2011 年日本学士院賞受賞、2012 年大阪科学賞、2021 年朝日賞、2022 年ブレイクスルー賞（数学部門）を受賞。2014 年 ICM 全体講演者。

第二部

「諸科学との分野横断研究・産業との連携研究の 共通基盤を担う数理科学の在り方と将来展望」

第二部総合司会

伊藤 由佳理

(日本学術会議第三部会員、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構教授)

第二部開会挨拶・趣旨説明

13:30 - 13:35

齋藤 政彦 (日本学術会議第三部会員、神戸学院大学経営学部教授)

各界からのご講演

13:35 - 14:05

「2030年に向けた数理科学の展開 - 数理科学への期待と重要課題 -」

藤井 典宏 (文部科学省研究振興局・基盤研究融合領域研究推進官)

「数理科学への経済会からの期待」

江村 克己 (日本学術会議連携会員、日本電気株式会社NECフェロー)

「数理科学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と

社会への展開 (JST-CREST) のご紹介」

上田 修功

(日本学術会議連携会員、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、NTTフェロー上田特別研究室長)

関連学協会および研究機関による講演「活動紹介・将来展望」

14:05 - 15:20

1. 一般社団法人日本数学会
2. 一般社団法人日本応用数理学会
3. 統計関連学会連合
4. 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所
5. 京都大学数理解析研究所

清水 扇丈 理事長

齊藤 宣一 理事

樋口 知之 理事長

梶原 健司 所長

小野 薫 所長

パネルディスカッション

15:35 - 16:55

司 会：齋藤政彦

登壇者：上記5名、江村 克己、上田 修功

閉会の挨拶

16:55 - 17:00

小澤 徹

(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院先進理工学部応用物理学教授)

主 催

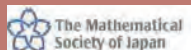


日本学術会議数理科学委員会数学科会



数理科学委員会 IMU分科会

後 援



一般社団法人日本数学会



一般社団法人日本応用数理学会



統計関連学会連合

連絡先

小澤 徹 (日本学術会議第三部数理科学委員会委員長)

txozawa[at]waseda.jp ([at]を@に変更してください)

お申込みは
こちらから ▶▶

参加申込みは定員になり
次第、終了といたします



3/13(月) 締切

潜在的な Future Resource エネルギー・資源に 着目した学術研究

令和5年

3/14 火

佐賀大学

理工学部 6号館 1階講義室
佐賀県佐賀市本庄町

14:00 - 16:15

ハイブリッド開催 | 現地&オンライン

近年、世界的に大規模な森林火災や干ばつなど、地球温暖化による気候変動を起因とする自然災害が増加しており、それにより、経済的な損失のみならず、自然環境や生態系へも様々な影響を与えています。このため、経済成長と環境保全との両立が課題となっており、これらの課題解決のため、我が国においても、温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギーに転換することで、産業構造や社会経済を変革し、成長につなげるグリーントランスフォーメーション(GX)の推進が求められています。

そうした中で、地域社会への貢献だけに留まらず、国際社会への貢献を視野に入れたグリーンエネルギーの活用や省エネルギー化に関する学術研究の成果について紹介し、その意義について地域社会における理解を深めます。

PROGRAM

14:00 — 開会挨拶

日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所・教授
梶田 隆章

日本学術会議連携会員、佐賀大学医学部・教授
出原 賢治

佐賀大学長
兒玉 浩明

14:15 — 講演① 海洋温度差発電を核としたSDG s 社会実装モデルの構築「KUMEJIMA MODEL」と「知の世界展開」

佐賀大学海洋エネルギー研究所所長・教授
池上 康之

14:55 — 講演② 超大型浮体式洋上風力発電システム技術の研究開発

佐賀大学海洋エネルギー研究所副所長・教授
吉田 茂雄

15:35 — 講演③ ダイヤモンド半導体 Beyond5G、EV、宇宙応用を目指した次世代パワー半導体

佐賀大学理工学部・教授
嘉数 誠

16:05 — 閉会挨拶

日本学術会議第三部会員、九州・沖縄地区会議代表幹事
九州大学主幹教授・副学長
玉田 薫

司会

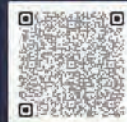
日本学術会議連携会員、佐賀大学農学部・教授
弓削 こずえ

「となたでもご参加できます」

参加費
無料!

「お申し込みはコチラ!」

締切日
3/10(金)



お問い合わせ先

佐賀大学 学術研究部 研究推進課

〒840-8502 佐賀市本庄町 1

TEL.0952-28-8401 FAX.0952-28-8883

主催 日本学術会議九州・沖縄地区会議、佐賀大学

後援 佐賀県、佐賀市、伊万里市、唐津市、嬉野市、有田町、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、放送大学佐賀学習センター、公益財団法人日本学術協力財団

カーボンニュートラルへの取り組み

第70回応用物理学会春季学術講演会内・一般公開シンポジウム

GX：グリーントランスフォーメーションに挑む 応用物理 ～持続可能な未来社会に向けて～

2023年 3月15日(水) 13:30～17:50

【場所】上智大学・四谷キャンパス & Zoom

【URL】<https://meeting.jsap.or.jp/opensymposium>

※一般公開はオンラインのみ（ZOOM定員：500名）



🍃 招待講演 🍃

伊藤 智（NEDO）【基調講演】

実現すべき豊かな未来－GX、自律分散社会、そしてWell-being－

堀 勝（名大）

半導体製造グリーン化に向けた学術的課題：大量電力消費型産業からの脱却へ

筑本 知子（中部大）

革新的GXに貢献する超伝導技術：現状と未来

小長井 誠（東京都市大）

主力電源としての太陽光発電技術－カーボンニュートラル社会の実現に向けてどのような太陽電池が必要となるか？

小林 弘典（産総研）【基調講演】

カーボンニュートラル実現に貢献する蓄電池技術

🍀 パネルディスカッション 🍀

下山 淳一（青山学院大）／モデレーター

秋永 広幸（産総研），上記招待講演者／登壇者

GXの推進には、今、応用物理分野に何が必要か？

－産官学・学会の役割、人材育成、など－

主催：日本学術会議・未来社会と応用物理分科会
公益社団法人応用物理学会

世話人：板垣奈穂（九大），下山淳一（青学），藤原聡（NTT）

問い合わせ先：itagaki@ed.kyushu-u.ac.jp



これからの 半導体産業を牽引する 人材育成と産学連携

主催：日本学術会議 電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会／
公益社団法人応用物理学会

2023年3月17日[金]
13:45 - 18:30

場所：第70回 応用物理学会 春季学術講演会内
@上智大学 四谷キャンパス A402 6号館

アクセス https://meeting.jsap.or.jp/venue_access

会場MAP https://meeting.jsap.or.jp/jsapm/wp-content/uploads/2023/01/campusmap_jpn.pdf

●オンライン (Zoom)

URL <https://meeting.jsap.or.jp/opensymposium>

※一般公開シンポジウム一覧の「これからの半導体産業を牽引する人材育成と産学連携」
からご視聴ください。

※講演者、パネリストは現地参加です。

※オンラインで視聴される方は、下記マニュアルをご参照ください。
https://meeting.jsap.or.jp/jsapm/wp-content/uploads/2022/12/2023s_manual-JPN_4.pdf

参加費：無料(一般公開) 定員：200名(事前登録不要)

シンポジウム・プログラム

●日本学術会議 一般公開イベント

URL <https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>

●第70回 応用物理学会 春季学術講演会

URL <https://meeting.jsap.or.jp/symposium>

お問い合わせ先

大橋 弘美 日本学術会議 デバイス・電子機器工学分科会委員長／古河電気工業

MAIL hiromi.oohashi@furukawaelectric.com

公益社団法人 応用物理学会事務局

TEL 03-3828-7721

FAX 03-3828-1810

MAIL meeting@jsap.or.jp

PROGRAM

13:45-13:50

ご挨拶

平本 俊郎 応用物理学会会長／東京大学

13:50-14:00

趣旨説明

大橋 弘美 日本学術会議 デバイス・電子機器工学分科会委員長／
古河電気工業

14:00-14:25

半導体業界における
人材採用と育成の実際
～さらなるイノベーションに向けた
SEAJの活動～

荒木 浩之 SCREENセミコンダクターソリューションズ

14:25-14:50

半導体デバイス企業が求める人財と
産学連携による育成について

石丸 一成 キオクシア

14:50-15:15

半導体産業をめぐる状況変化と
人財育成
—STEMと産学共同の行方—

日高 秀人 ルネサスエレクトロニクス

15:15-15:40

熊本大学における
半導体人材育成への取り組み

青柳 昌宏 熊本大学

15:40-16:00

休憩

16:00-16:25

これからの半導体産業を牽引する
ワールドクラスの人材育成と産学連携

常石 哲男 東京エレクトロンデバイス

16:25-18:20

パネルセッション
産学連携による
半導体産業を牽引する人材育成

【司会】

高木 信一 日本学術会議 デバイス・電子機器工学分科会幹事／
東京大学

森 勇介 日本学術会議 デバイス・電子機器工学分科会副委員長／
大阪大学

為近 恵美 日本学術会議 デバイス・電子機器工学分科会幹事／
横浜国立大学

【パネリスト】

常石 哲男 東京エレクトロンデバイス

山本 義継 みずほ証券

黒田 忠広 東京大学

若林 整 東京工業大学

遠藤 哲郎 東北大学

青柳 昌宏 熊本大学

井上 史大 横浜国立大学

18:20-18:30

閉会の挨拶

中野 義昭 日本学術会議 電気電子工学委員会委員長／
東京大学

日本学術会議公開シンポジウム

第3回 With/After コロナ時代における ケアの課題と新たな取り組み

～医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案～

日 時：令和5年3月18日（土） 13：00～16：00

場 所：オンライン、及びYouTube ◎一般参加可、参加費無料

13：00 開会

司会 森山 美知子（日本学術会議連携会員、広島大学 教授）
山田 あすか（日本学術会議連携会員、東京電機大学 教授）

13：05 挨拶 武田 洋幸（日本学術会議第二部部長、東京大学 教授）

13：10 第2回公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の概要

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学 教授）

13：20 我が国における高齢者終末期医療の課題～コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題

西村 正治（日本学術会議連携会員、豊水総合メディカルクリニック医師、
北海道呼吸器疾患研究所代表理事、北海道大学 名誉教授）

13：40 コロナ対応の倫理的問題：功利主義と自由

河野 哲也（日本学術会議連携会員、立教大学 教授）

14：00 感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題

武藤 香織（日本学術会議連携会員、東京大学 教授）

14：20 ウィズコロナ時代の地域社会とケア～すべての人にケアリテラシーを

山本 則子（東京大学 教授）

（休憩）

15：00 指定発言

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構 機構長・
未来ビジョン研究センター 教授）

質疑応答

16：00 閉会

主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会における
ケアサイエンス分科会
臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会

共 催：日本看護系学会協議会

申し込み



発表概要

「我が国における高齢者終末期医療の課題～コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題」

西村正治（日本学術会議連携会員、豊水総合メディカルクリニック医師、北海道呼吸器疾患研究所代表理事、北海道大学名誉教授）

この度のコロナパンデミックで不幸な転機をとった患者は大半が後期高齢者であり、重症化したケースも圧倒的に高齢者が多かった。そのような患者が、自宅・介護施設・療養型病院等々から先端医療や救急患者を担うべき第一線の大学病院や地域の公的機関病院のコロナ病棟に次々と運ばれたのである。いったい、そこではどのようなことが行われ、どのような問題を引き起こしたであろうか。本講演ではコロナパンデミック下の高齢者医療とくに終末期医療の問題点を洗い出し、その背景にあるポストコロナにも繋がる高齢者終末期医療の課題について医師の立場からお話したい。

「コロナ対応の倫理的問題：功利主義と自由」

河野哲也（日本学術会議連携会員、立教大学教授）

今回のパンデミックでは、どのような倫理的な基準で政策判断をするかがきわめて困難であったと思われる。ここで拙いながらも哲学的な倫理学の立場から考察したいのは、日本人が倫理的判断をするための価値と選択の方法を普段からどのように学ぶべきかと、日本で無視されがちな幾つかの基本価値について、それをどのように判断の中に導入するかにある。それは同時に、マスコミでの議論の仕方でもあると思われる。

「感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題」

武藤香織（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

COVID-19のパンデミックでは、流行のたびに異なる事態が発生し、感染予防策と適切な医療の確保の双方に課題を残し続けている。パンデミックである以上、医療やケアの提供について一定の優先順位に基づく施策決定を迫られる。しかし、ケアを必要とする人の人権擁護や倫理的な価値判断について、政府が基本的な考え方を明確にしない事態が長期化し、救急搬送や病床確保、ワクチン接種における優先順位、面会や付き添いの方針等は、地域や現場の判断に一任されてきた。政府のコロナ対策に携わった立場から、これらの課題を振り返る。

「ウィズコロナ時代の地域社会とケア：すべての人にケアリテラシーを」

山本則子（東京大学教授）

今までの地域社会はケアを必要とする人々を分離し別枠として対応してきたが、コロナ禍を契機としてこのような対応は破綻した。また、新興感染症、多発する災害など、誰もが突然ケアを必要とする人になりうる時代である。このような時代に、全国民が皆ケアラーになることを提唱したい。専門職に頼らず自分自身のケアラーになること、その力を応用し他者のケアラーになることが含まれる。ケアは、ケアラー側にも深い意味を持つ重要な人間活動である。老いも若きもあらゆる場面でケアリテラシーを高める仕組みを作りたい。

開催趣旨：

少子高齢人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。また地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界が見られている。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な社会機能の崩壊が現実の課題として突き付けられた。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつであろう。

我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野および問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味する。その中で科学者の地域貢献に関する役割を可視化する。この取り組みによって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現をめざす。

本シンポジウムは、with/afterコロナ時代において、脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究および課題への具体的な取り組みをシリーズで紹介し、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズ企画の第3弾では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって浮かび上がってきた、**高齢者終末期医療として行われたことと課題、日本人が倫理的判断をするための基本価値と選択の方法、政府の感染予防策と適切な医療の確保に関する課題、そして誰もが突然ケアを必要とする人になりうる時代の課題と全国民が皆ケアラーになることの提案**をもとに、多分野の登壇者および参加者の皆様との議論を通して、地域社会において共に生きることが成り立つために講じるべく策について検討する。

日本学術会議主催 学術フォーラム 研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進



日時：2023年3月22日(水)13:30～17:00

場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）

参加費：無料、どなたでも参加できます。

下欄から事前申込みが必要です。

日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会では24期から研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関する大学・研究機関向けアンケート調査を実施し、その成果を提言として発出すべく準備を進めてまいりました。

本フォーラムでは、その提言を基調講演とし、大学、学協会、産業界などからもご登壇いただき、研究力強化とダイバーシティ&インクルージョンについて議論を深めたいと思います。

●総司会 三尾裕子（日本学術会議会員、慶應義塾大学教授）

●開会挨拶13:30～13:40

- ・望月真弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）
- ・岡田恵子（内閣府男女共同参画局長）
- ・柿田恭良（文部科学省科学技術・学術政策局長）

●第一部：提言（予定）及び学協会のアンケート調査結果等について

座長：熊谷日登美（日本学術会議会員、日本大学生物資源科学部教授）

[講演]13:40～14:35

1. 提言（予定）「大学・研究機関における男女共同参画への取り組み実態から見た課題と対応
～研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査から～」について

三成美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授）

野尻美保子（日本学術会議会員、大学共同利用機関高エネルギー加速器研究機構教授）

2. 男女共同参画学協会連絡会の大規模アンケート結果から

原田慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白研究所教授）

3. 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)/調査企画委員会・調査分析委員会のアンケート調査結果から

永瀬伸子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）

4. 男女共同参画への取り組みの国際比較

米澤彰純（東北大学国際戦略室教授）

[討論1]14:35～15:15 モデレーター：熊谷日登美

コメンテーター：芳賀 満（日本学術会議会員、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

玉田 薫（日本学術会議会員、九州大学副学長・教授）

～休憩（15分）～

●第二部：様々な立場における男女共同参画の取り組みや課題について

座長：藤井良一（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長）

[講演]15:30～16:20

・若手男性研究者の立場から：標葉隆馬（日本学術会議特任連携会員、大阪大学・社会技術共創研究センター准教授）

・企業の取り組み1：鈴木ゆかり（株式会社資生堂代表取締役常務、チーフD&Iオフィサー）

・企業の取り組み2：福地敏行（日本アイ・ビー・エム株式会社特別顧問、チーフ・ダイバーシティ・オフィサー）

・研究者の男女共同参画の国際比較：河野銀子（日本学術会議連携会員、山形大学学術研究院教授）

・経済学からみた男女共同参画の必要性：山口慎太郎（東京大学大学院経済学研究科教授）

[討論2]16:20～16:50 モデレーター：伊藤公雄（日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授）

●閉会挨拶16:50～17:00

・高橋裕子（日本学術会議会員、津田塾大学学長・教授）

参加申し込み：事前に下記URL又はQRコードよりご登録ください（参加無料、どなたでも参加できます）

URL：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0186.html>

場所：日本学術会議講堂

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口 より徒歩1分

主催：日本学術会議

企画：科学者委員会男女共同参画分科会

共催：一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）、全国ダイバーシティネットワーク

問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 電話：03-3403-6295



シンポジウム

コロナ禍で顕在化した危機・リスクと 社会保障・社会福祉 ～ 誰一人取り残さない制度・支援への改革～

日本学術会議社会福祉学学科会が表出した（予定）「見解：コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」にもとづき、見解執筆者らによる提案の背景、意義、内容の報告に対し、外部有識者らからのコメントをふまえ、誰一人取り残さない制度・支援への改革にむけた今後の展望について議論する。

登壇者



稲葉 剛



大和 三重



竹本 与志人



原田 正樹



古都 賢一



保正 友子



山野 則子



湯澤 直美



和気 純子



和田 肇

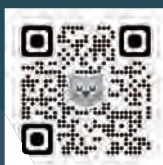
プログラム

- 開会 保正友子（日本学術会議連携会員 日本社会福祉系学会連合会長）
- 第Ⅰ部『報告』
 - 和気 純子（日本学術会議第一部会員 東京都立大学教授）
「趣旨説明、日常生活に支援を要する人の危機・リスクの低減と制度改革」
 - 原田 正樹（日本学術会議連携会員 日本福祉大学教授）
「生活困窮者における危機・リスクの低減と危機における差別防止と制度改革」
 - 山野 則子（日本学術会議特任連携会員 大阪公立大学教授）
「子ども家庭における危機・リスクの低減と制度改革」
 - 湯澤 直美（日本学術会議連携会員 立教大学教授）
「女性における危機・リスクの低減と制度改革」
- 第Ⅱ部『コメント・討論』
 - 和田 肇（日本学術会議第一部会員 名古屋大学名誉教授）
 - 古都 賢一（全国社会福祉協議会副会長）
 - 稲葉 剛（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事 立教大学客員教授）
- 閉会 竹本与志人（日本学術会議連携会員 岡山県立大学教授）
- 司会 大和三重（日本学術会議連携会員 関西学院大学教授）

2023 年
3月26日 On-Line
13:30～16:00

無料

お申込は
こちらから



お問合せ：0326symposium@gmail.com

主催 日本学術会議社会学委員会・社会福祉学学科会
共催 日本社会福祉系学会連合 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
後援 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）

公開シンポジウム
「計算音響学の目指すもの」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本音響学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合（調整中）
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会、公益社団法人日本騒音制御工学会（調整中）
4. 日 時：令和5年（2023）年3月27日（月）11：00 ～ 17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）

6. 開催趣旨：

本シンポジウムは主催分科会に設置されている「計算音響学小委員会」の活動を反映させたものである。当小委員会では、音の発生、音の伝播、聴覚器官による音響感覚、音楽、騒音等、音に関するあらゆる現象を扱うなど、その領域は物理学・工学・心理学・感性工学・生理学など多くの分野にわたる、まさに総合工学である。これまで、スーパーコンピュータを用いた「コンサートホールの音響」のシミュレーション、AI と音質シミュレーション、楽器の発音機構のモデリングとシミュレーションから作曲に至るまで実機を用いず感性の領域までバーチャル・シミュレーション（MBD）の議論に至っている。ドイツではこの動きを第4次産業革命と位置付け「インダストリー4.0」が精力的に進められているが、当小委員会では「インダストリー4.0」などでは見られない感性とも融合させている。このような動きを我が国でも組織的に検討すべき時が来ており、その加速の一助とすべく本シンポジウムを開催する。

7. 次 第：

11：00 挨拶

越塚 誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学系研究科システム創生学専攻教授）

11：05 開催の趣旨

吉村 卓也（日本学術会議特任連携会員、東京都立大学システムデザイン研究科機械システム工学域教授）

司会 山本 崇史（工学院大学工学部機械工学科教授）

11 : 10 「アンティーク・ヴァイオリンの振動と音場に関する数値解析」

横山 真男 (明星大学情報学部情報学科教授)

11 : 40 「楽器の研究における計測とシミュレーションについて」

若槻 尚斗 (筑波大学システム情報系教授)

12 : 10－13 : 10 昼休み

司会 山本 崇史 (工学院大学工学部機械工学科教授)

13 : 30 「自動作曲の可能性と限界」

嵯峨山 茂樹 (東京大学名誉教授)

14 : 00 「観察と対話に基づく自律エージェントの音声言語獲得」

篠崎 隆宏 (東京工業大学工学院情報通信系准教授)

14 : 30 「音を直感的に表現するオノマトペの数値化」

坂本 真樹 (日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科
総合情報学専攻教授、副学長)

15 : 00－15 : 10 休憩

司会 谷口 隆晴 (神戸大学大学院システム情報学研究科准教授)

15 : 10 「シンギング・リンの振動音響解析」

黒沢 良夫 (帝京大学理工学部機械・精密システム工学科教授)

「シンギング・リンの脳への影響」

満倉 靖恵 (慶應大学理工学部システムデザイン工学科教授)

15 : 50 「計算音響学と自動車」

石濱 正男 (明治大学客員研究員)

16 : 20 総合討論

司会 石濱 正男 (明治大学客員研究員)

コメンテーター 岡村 宏 (芝浦工業大学名誉教授)

コメンテーター 坂本 慎一 (東京大学生産技術研究所教授)

コメンテーター 満倉 靖恵 (慶應大学理工学部システムデザイン工学科教授)

17 : 10 閉会の挨拶

萩原 一郎 (日本学術会議特任連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究
特別教授、東京工業大学名誉教授)

(下線の講演者等は、主催分科会委員)